

令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、グローバルな視点を持って高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする「人生の物語を編める生徒」を育てる学校

(1) 生徒の高い志をはぐくみ、希望する進路実現のための学力を育てる学校
 (2) 世界的な視野を持ち、多様な文化・価値観を持った人々を理解し、協働できる生徒を育てる学校
 (3) コミュニケーション力を身につけ、自分の言葉で自分の考えを表現できる生徒を育てる学校
 (4) 校訓である「自他敬愛」の心をはぐくみ、互いに支え励ましながら成長できる生徒を育てる学校
 (5) 地域に信頼され愛される学校の取組みを通して、社会的貢献ができる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 基礎学力を充実させ、高い志をはぐくみ、すべての生徒の第一志望進路の実現を図る

(1) 普通科専門コース制の特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。
 ア コース制の充実を図り、3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。
 専門コースにおける希望する進路の実現達成率を R04 年度には 85%以上にする (R01:92% H30:67% H29:62%)
 R01 年度は入学定員厳格化で志望校を下げる傾向があり数値が上がった。
 イ 進路行事を積極的に展開し、進路に関する意識向上と日々の学習意欲の向上を図る。
 学校教育自己診断における「進路行事が進路決定に役立つ」(生徒)の肯定率(R01 年度 75%)を R04 年度には 85%以上にする (R01:85% H30:80% H29:68%)

(2) 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。
 ア 生徒による授業評価の活用。東百舌鳥 Style (授業の「めあて」・生徒の活動場面 (グループワーク等の協調学習など)・「振り返り」を取り入れたアクティブ・ラーニング型授業)を全教科で実施し、授業力向上を図る。「東百舌鳥 Style」の取組率(R01 年度 95%)
 イ 学力生活実態調査・基礎学力調査等を分析・活用し、生徒の希望する進路実現に相応しい学力養成に努める。
 学校教育自己診断における「授業の内容をわかりやすく工夫」(生徒)の肯定率(R01 年度 64%)を R04 年度には 75%以上にする (R01:64% H30:68% H29:62%)

(3) ICT 環境を学習及び教員の校務の効率化のツールとして最大限活用する。
 ア ICT 機器を活用した授業の実施を推進。
 学校教育自己診断における「授業で ICT 活用に取り組んでいる」(生徒)の肯定率 (R01 年度 87%) 90%超を維持する (R01:87% H30:93% H29:90%)
 イ ICT 機器の活用により校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。
 ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下の高水準を維持する (R01:84 H30:84 H29:96)

(4) 個別指導の充実と自己学習の支援
 ア 支援の必要な生徒実態を把握し、教職員の共通理解を促進し、支援の充実を図る。
 イ 進学及び授業補充講習を実施するとともに、自学自習のための支援体制を整備する。
 学校教育自己診断における「年度当初より自ら進んで学習するようになった」(生徒)の肯定率(R01 年度 63%)を R04 年度には 70%以上にする (R01:63% H30:59% H29:56%)

2 あらゆる教育活動で「21 世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する。

(1) 学校における教育活動のあらゆる面で、生徒の言語活動の充実を図る。
 ア ICT 活用及び協調学習 (ペアワークやグループワーク)を通して、プレゼンテーション力と問題解決能力を育成する。
 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(生徒)の肯定率 80%以上 (R01:78 % H30:72%) R01 年度、2 年生では 88%、H30 年度より調査。

(2) 多様性への理解をはぐくむ。
 ア 英語コミュニケーション能力の向上。大阪府立大学留学生との交流等を企画・立案・実施する。
 実用英語検定受験者数 (R01:123 名 H30:157) 及び 2 級・準 2 級合格者数 (R01:12 名 H30:11 名) を R04 年度にはそれぞれ 200 名及び 25 名以上にする。

(3) 国研研究指定校事業「学びに向かう探究学習 (総合的な探究の時間)」の研究開発及び実践を引き続き推進するとともに全国に成果を発信する。
 ア 協働で探究のプロセスを繰り返し設定することで、ピア・マインドセットを育みながら、生徒一人ひとりが課題に関連し自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開し、各教科等で身に付けた資質・能力等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。
 イ 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、成果の公表を行う。
 ウ 「探究学習」における更なる形成的評価方法の研究・開発に取り組む、今後とも継続して生徒一人ひとりの多様な学びを形成的に評価できるよう研究・開発を進めていく。

3 「自他敬愛」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり

(1) 「自他敬愛 (自らに誇りを持ち、自らを大切に。他者を尊重し、他者を思いやる)」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。
 ア 相手と協力し合い、友好的パートナーシップを築くことで、より「自他敬愛」の精神を育てる。「ピア・サポート」活動を一層、拡大充実させる。

(2) 規範意識の向上 (善悪の判断ができる人材及び感謝報恩の心をもった人材を育成)。
 ア 毎朝の立ち番指導及び通学指導を継続し、通学マナー及びあいさつ運動の向上を図るとともに、頭髪・服装・遅刻指導を推進する。
 イ 急速に普及しているスマートフォンなどの SNS 上の人権侵害防止についての取組みを推進する。
 学校教育自己診断による「生活規律・学習規律の指導」(生徒)の肯定率 (R01 年度 87%) を R04 年度には 90%以上にする (R01:87% H30:86% H29:86%)

(3) 自主的活動ができる生徒集団の育成。
 ア 生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動 (生徒会行事・生徒会活動・部活動) できるよう学校全体で支援していく。
 部活動加入率 (R01 年度 59%) を R04 年度には 67%以上にする (R01:59% H30:60% H29:56%)
 イ 文化・芸術活動の振興、図書館利用・読書活動の充実、生徒による校内外の美化活動を推進する。

(4) 安全で安心な学びの場づくりの推進。
 ア 実効性のある「危機管理マニュアル」の作成、実践的な避難訓練を通じて、危機管理体制の充実・防災教育の取組みを図る。
 イ 食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修等を通じて、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。

4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み

(1) 教科会議・コース会議の充実・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員の研修の充実、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担による学校組織力の向上
 (2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。
 (3) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校をめざす。
 ア 個人情報の適正管理・学校会計事務の適正化に努める。
 イ 学校説明会を積極的に実施し、本校の特色ある取組みをアピールする。ブログ及び学校クラウドサービスを活用して、最新の学校情報を発信する。
 ウ 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校をめざす。
 教育自己診断による「ホームページは充実している」(保護者)の肯定率 (R01 年度 78%) を R04 年度には 85%以上にする (R01:78% H30:74% H29:76%)
 教育自己診断による「クラウドサービスによる連絡は役に立っている」肯定率(保護者)の肯定率(R01 年度 83%)を R04 年度には 90%以上にする (R01:83% H30:81% H29:87%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を充実させ、高い志を高くくみ、すべての生徒の第一志望の達成を図る	(1)普通科専門コース制の特色を生かし、生徒の学習意欲の向上を図る。 ア コース制の充実を図り、3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。 イ 進路行事の積極的展開 (2)授業改善と希望する進路を切り拓く学力の育成 ア 授業アンケート結果等の活用、授業の「めあて」「振り返り」の全教科実施 イ 進路実現に相応しい学力の養成 (3)ICT環境の活用 ア 授業実施の推進 イ 公務の効率化 (4)個別指導の充実と自己学習の支援 ア 支援の必要な生徒実態の把握 イ 自学自習のための支援体制の整備	(1) ア・学習指導室を中心に、3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。 ・コース制の充実(コース会議・ガイダンス・相談会・講演会・フィールドワーク等) イ・学習指導室を中心に、3年間を見据えたキャリア教育の充実を図る。 ・大学見学や先輩の話を聞く会、進路講演会等を通して、生徒が自己の将来像を描き、主体的に学ぶ態度を育てる。 (2) ア・授業アンケート結果等を参考に、自己・教科の振り返りを行い、授業改善に努める。 ・授業の「めあて」と「振り返り」を全教科で実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を推進する。 ・外部講師による講習会の参加、校内外の優れた実践事例の研修等を通じ、指導法を研究し、共有する。 イ・志望校検討会・コース選択検討会等を通じ、効果的な進路指導を行う。 (3) ア・ICT機器を活用した授業の実施を推進 イ・ICT機器を活用して校務の効率化を図る (4) ア・高校生活支援カードを活用し、適切な指導・支援の充実を図る。 ・教育相談・支援委員会による教育相談体制の充実 ・外部講師を招き人権課題の理解を深める。 イ・全学年を通じて「ひがも塾」、早朝、放課後、土曜、夏季、大学入学共通テスト対策講習等に取組み、生徒の学力向上に努める。大阪府立大学等ボランティアセンターとの連携。	(1) ア・専門コースにおける希望する進路の実現達成率 80%以上 (R01:92% H30:67%) イ・進路行事に対する肯定率 82%以上(R01:85 % H30:80%) ・進路決定の際の情報提供に対する肯定率 87%以上 (R01:85% H30:84%) (2) ア・授業満足度 72%以上(R01:64% H30: 68%) ・「東百舌鳥 Style」の取組比率 90%超の維持 (R01:95 % H30:90%) イ・すべての外部模試の結果報告会及び3年生の志望校検討会を実施する。 ・1、2年生のコース選択検討会を実施する。 (3) アイ・「授業でICT活用に取組んでいる」(生徒)の肯定率 95%以上の維持。(R01:87% H30:93%) ・ICT機器を使った授業での活用率 95%超の維持 (R01:98 % H30:96%) ・ICT機器を使った研究授業を年20回以上、研修会を年15回以上開催 (R01:21回/12回 H30:23回/10回) (4) ア・共通理解のための研修を年2回実施 ・「教育相談」(生徒/保護者)の肯定率 74%/82%以上 (R01:71%/79% H30:69%/78%) イ・講習、補習の受講者数のべ500人以上 (R01:472人 H30:562人) ・「年度当初より自ら進んで学習するようになった」の肯定率 70%以上(R01:63 % H30:59%)	
2 「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する	(1)言語活動の充実 ア プレゼンテーション力・問題解決能力の育成 (2)多様性への理解 ア 英語コミュニケーション能力の向上。大阪府立大学留学生との交流等 (3)「学びに向かう探究学習(総合的な探究の時間)」の推進 ア 「探究学習」を主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。 イ 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」の有効活用 ウ 「探究学習」における形成的評価方法の研究・開発	(1) ア・授業で、プレゼンテーション力・問題解決能力を発現する機会をつくる。 (2) ア・実用英語検定・英語学力調査の受験を奨励する。 ・大阪府立大学留学生との交流等を企画・立案・実施する。 (3) トータルプラン推進室を中心に、外部講師による研修会、先進校視察等により「学びに向かう探究学習(総合的な探究の時間)」の研究開発及び実践を引き続き推進するとともに全国に成果を発信する。大学生・院生等のTAも活用する。 ア 協働で探究のプロセスを繰り返し設定することで、生徒一人ひとりが自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開し、各教科等で身に付けた資質・能力等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。 イ 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、成果の公表を行う。 ウ 「探究学習」における更なる形成的評価方法の研究・開発に取組み、今後とも継続して生徒一人ひとりの多様な学びを形成的に評価できるよう研究・開発を進めていく。	(1) ア・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(生徒)の肯定率 81%以上 (R01:78 % H30:72%) (2) ア・英検受験者数 150人以上、英検2級・準2級合格者 15人以上 (R01:123人・12人 H30:157人・11人) ・Global Assessment 調査・Interview Test 調査を実施し、語学研修の充実を、生徒の変容により測定する。 ・学年単位で留学生との交流を行う。 (3) ・「学びに向かう探究学習(総合的な探究の時間)」の研究開発及び実践を引き続き推進するとともに全国に向け成果発表会を実施する。関連する校内研修を2回実施する。 ・「探究学習」の学びを教科にも取り入れ、教科横断的な学びを複数教科で実施する。 ・カリキュラムマネジメントの実践例として、「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用した新教育課程を編成し、成果の公表を行う。	
3 「自他敬愛」の心を高くくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり	(1)「自他敬愛」の心を持ったグローバルリーダーの育成 ア 「自他敬愛」の精神の育成。「ピア・サポート」活動の拡大充実 (2)規範意識の向上 ア 通学マナー・あいさつ運動の向上 頭髪・服装・遅刻指導の推進 イ スマホに関する指導 (3)自主的活動ができる生徒集団の育成 ア 生徒の主体的活動を学校全体で支援。 イ 生徒による校内外美化活動の推進。 (4)安全で安心な学びの場づくりの推進。 ア 危機管理体制の充実・防災教育の取組み イ 食物アレルギー等に係る事故防止	(1) ア・「ピア・サポート」で培った、関係づくりを生かし、多文化共生の取組を推進する。 (2) ア・毎朝の立ち番指導及び通学マナー指導の継続。 イ・1年生に対して、「スマートフォンによる人権侵害」についての取組を推進する。 ・外部の人材派遣による人権研修の開催 (3) ア・生徒会活動を通じて、生徒の主体的活動を支援する。 ・リーダー研修、ピア・サポート研修の充実 ・生徒(生徒会役員・部活動部員)が運営する学校説明会。 ・中学生招待大会の実施(バスケットボール・サッカー・バレー) ・部活動の活性化、全国大会出場に向けた支援 ・生徒会が運営する部活動発表の機会や場の設定。 ・ピピリオバトル等の読書活動の取組みを推進する。 イ・校内及び地域美化活動の推進。 (4) ア ハザードマップや近隣の避難場所などの情報も収集して、万一の場合の自校の避難場所を想定し、危機管理マニュアルや大規模災害時初期対応マニュアルに明記するとともに、実効性のあるマニュアルとなるよう点検・見直しを行い、災害に備えた危機管理体制の確立を図る。 イ 食物アレルギーの事故は、いつ、どこででも起きるものだと想定し、すべての教職員が緊急時に対応できるよう、校内研修等の充実を図る。	(1) ア・「学校に行くのが楽しい」(生徒/保護者)の肯定率 85%以上(R01:83/81% H30:80/78%) (2) ア・通学マナー指導を1週間単位で年5回実施 ・遅刻総数前年度比 10%減 (R01:3440回 H30: 3296回) (3) ア・各行事後のアンケートにおける満足度 93%以上 (R01:91 % H30:82 %) ・リーダー研修年4回、ピア・サポート研修年10回実施 ・中学生招待「東百舌鳥杯」大会を、男女バスケットボール、女子バレーボール、サッカーでのべ28校の参加で実施する。(R01:26校 H30:27校) ・新入生の部活動加入率 80%以上(R01:75 % H30:79%) ・生徒向け貸出冊数の1割増加 (R01:1060冊 H30:1008冊) イ・毎週、生徒美化委員による校内清掃点検活動を行う。 (4) ア 「危機管理マニュアル」を教職員のみならず、地域の自治会長と共有し、災害に備えた危機連絡体制を確立する。 イ 食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修を年2回実施し、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。	
4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み	(1)教科会議・コース会議相互授業見学の充実、経験年数の少ない教員の研修の充実、学校組織力の向上。 (2)「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善 (3)開かれた学校づくり ア 個人情報保護の適正な管理 イ 学校説明会の充実 ウ 地域と連携した事業の展開、地域とともに成長する学校づくり	(1)教科会議・コース会議を授業力向上及び生徒の希望する進路実現のための研修の場として位置付けるとともに、積極的に研究授業を行うことで、教科としての授業力向上を図る。 ・テーマを立てた相互授業見学や外部の教員研修・講習会に参加する等、教員の授業力向上を図る。 ・校内初任者研修を週1回行うことで、教員としての資質・能力を高くくみ、チーム東百舌鳥で初任者を支える。 ・個々の教職員の経験年数や適性に合わせた役割分担を行うことで、チーム東百舌鳥で学校運営を推進する。 (2)安全衛生委員会と連携し、教職員の安全及び健康の保持、ならびに快適な職場環境の整備・促進に努める。 (3)ア 規則・マニュアルに基づき適正に処理し、生徒購入物品の代金引換や後払いの徹底に努める。 イ・オープンスクール・体験入学の充実を図る。校長室ブログ・進路ブログ・生徒会ブログ・部活動ブログ・図書館ブログ等の積極的な更新を推進する。 ウ・地域と連携した事業を展開する。 ・「子育てひろば・東もず」との連携を一層進める。 ・地域の方を対象に「歴史探訪」を実施する。	(1)各教科において、指導方法の工夫・改善に努めているの肯定率 90%以上 (R01:89 % H30:82%) ・全教科で研究授業年1回以上を維持。(R01:1回) ・相互授業見学教員一人当たり平均3回以上。(R01:3回) ・校内初任研を週1回実施。 ・「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取組める環境にある」の肯定的評価 75%以上 (R01:73% H30:67%) (2)ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を高水準で維持 (R01:84 H30:84) ・気軽に相談しあえる人間関係できているの肯定率 85%以上 (R01:83 % H30:79%) (3)ア・学校会計事務の適正化に係る自己診断 イ・オープンスクール・体験入学等の参加者数の増加 (R01:のべ2027人 H30:のべ1603人) ・入学生調査でオープンスクール・体験入学の参加経験者の割合を 68%以上 (R01:65 % H30:63%) ・各ブログの内容を充実させ、更新頻度をあげる ・「ホームページは充実している」(保護者)の肯定率 80%以上 (R01:78 % H30:74%) ・「クラウドサービスによる連絡は役に立っている」肯定率 (保護者)の肯定率 85%以上 (R01:83 % H30:81%) ウ・地域の行事等交流参加生徒のべ500人以上 (R01:のべ488人)	